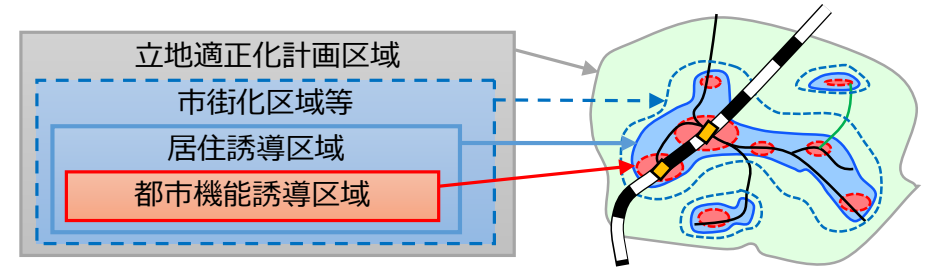


立地適正化計画とは

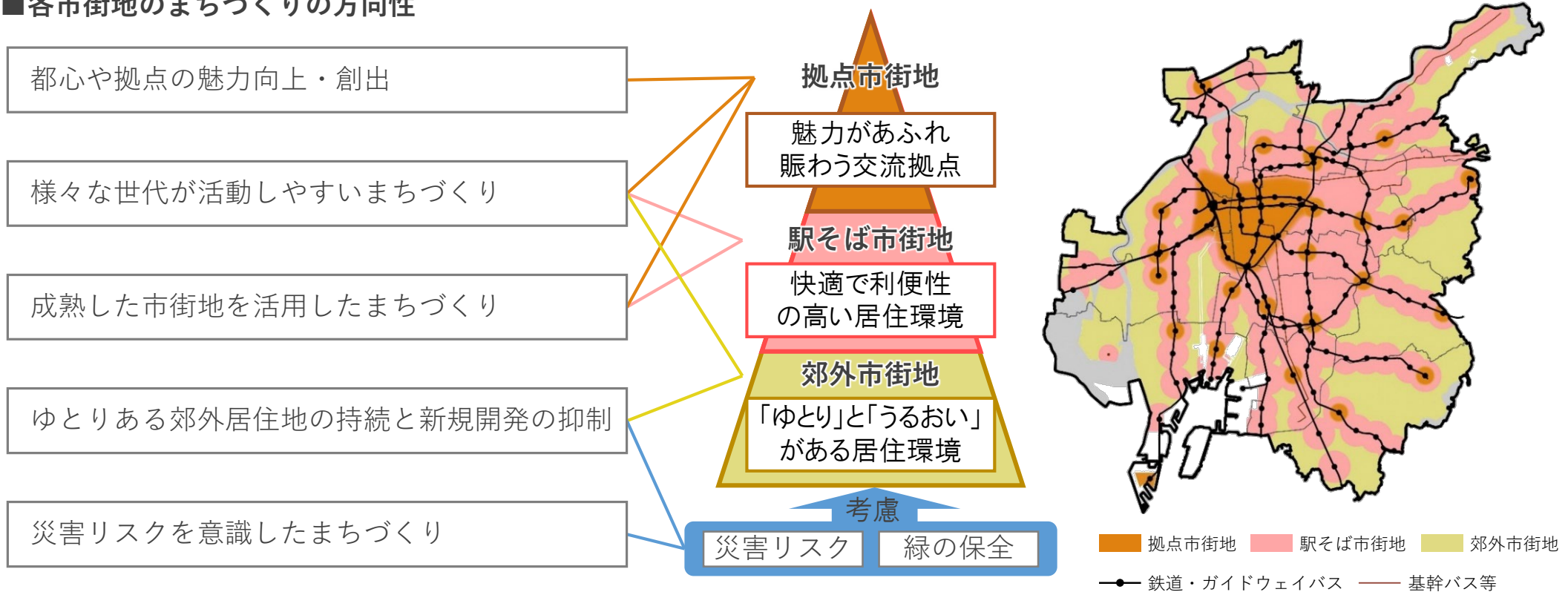
- ・立地適正化計画は、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考えに基づいて、都市機能増進施設や居住の立地誘導をはかる計画
- ・居住や都市機能を誘導する範囲や誘導する施設を設定



1. なごや集約連携型まちづくりプランの概要

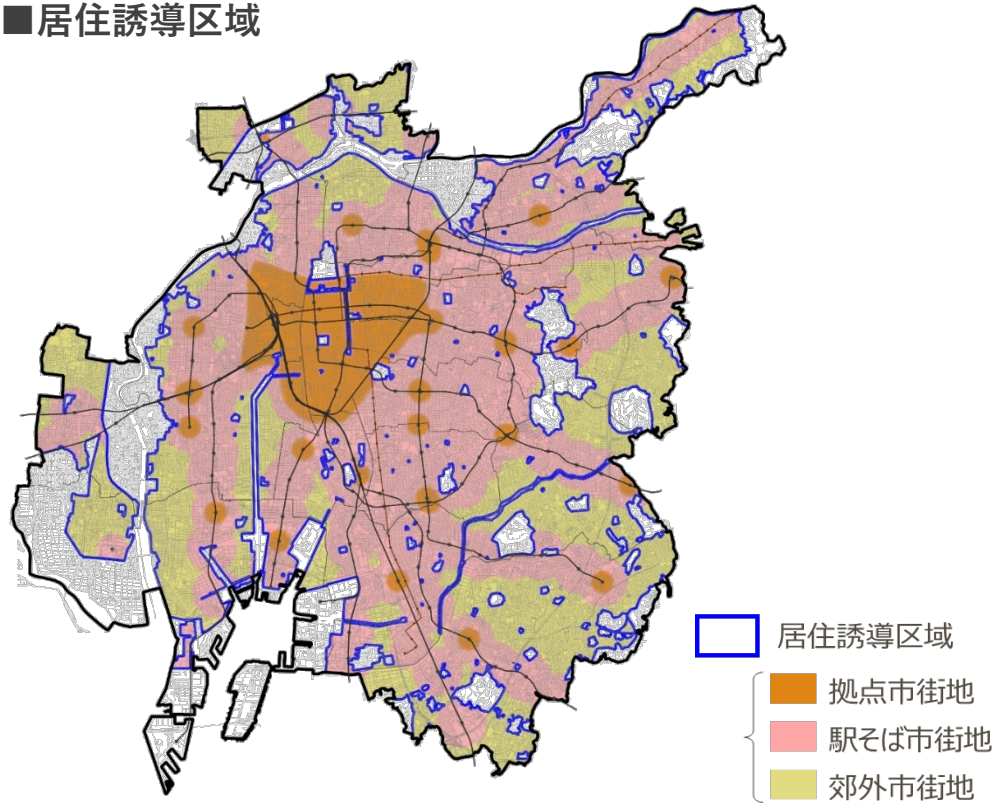
- ・平成30年に「なごや集約連携型まちづくりプラン」を策定
- ・集約連携型都市構造の実現に向けて取り組みを進めており、そのなかで、災害リスクを考慮した土地利用誘導をはかっている

■各市街地のまちづくりの方向性



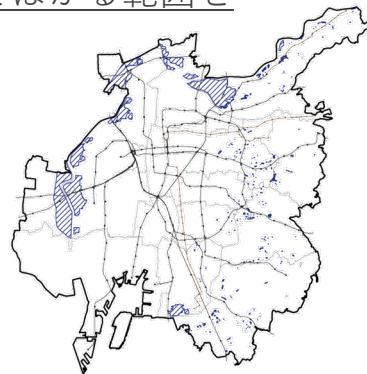
1. なごや集約連携型まちづくりプランの概要

■ 居住誘導区域

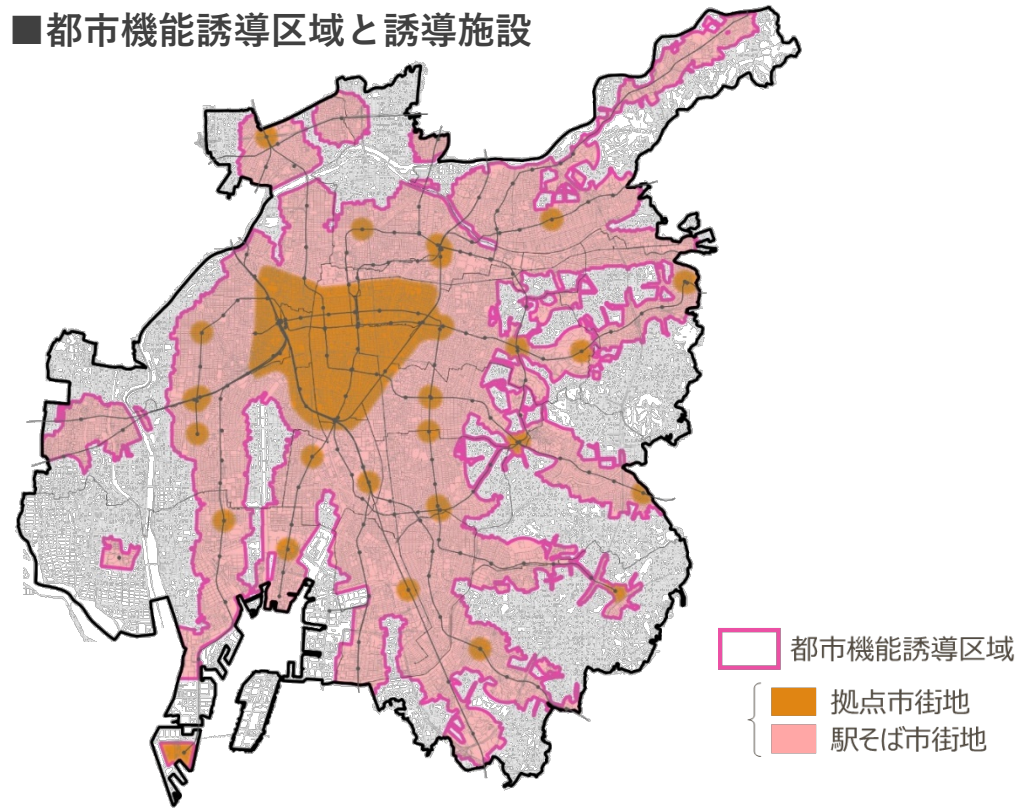


重点的に災害リスクの理解促進をはかる範囲を居住誘導区域から除外

- 土砂災害特別警戒区域、警戒区域及び急傾斜地危崩壊険区域
- 洪水浸水想定区域(計画規模)のうち浸水深3m以上の範囲
- 津波浸水想定区域のうち浸水深2m以上の範囲



■ 都市機能誘導区域と誘導施設



誘導施設

…広域的な拠点施設や地域の拠点施設

- 文化・スポーツ交流施設  
劇場、映画館、多目的ホール、博物館、美術館など
- 国際・産業交流施設  
MICE施設、大学・短期大学、外国語での利用に対応した教育・医療・保育施設など 等

2. なごや集約連携型まちづくりプランの見直し内容

《都市再生特別措置法の改正（R2）の概要》

頻発・激甚化する自然災害に対応するため、災害ハザードエリアにおける新規立地の抑制、移転の促進、防災まちづくりの推進の観点から総合的な対策を講じることが喫緊の課題

安全なまちづくりを推進

- 災害ハザードエリアを踏まえた防災まちづくり
  - ▶ 居住誘導区域から急傾斜地崩壊危険区域等の除外を義務化
  - ▶ 「防災指針」の作成

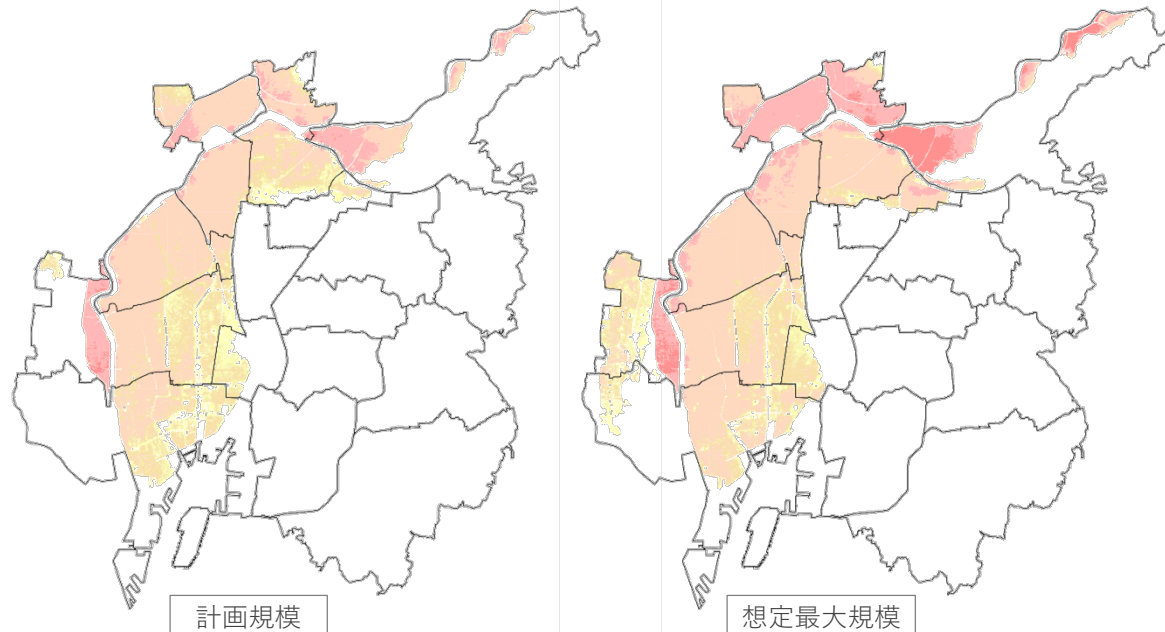
頻発・激甚化する災害への対応

見直し① 災害の発生頻度・規模に応じた災害リスクの周知と居住誘導の検討

高頻度～中頻度

低頻度

(庄内川水系庄内川・矢田川洪水浸水想定区域図)



見直し② 防災指針の作成

居住誘導区域内等における防災対策・安全確保策のとりまとめ

洪水、高潮、津波などの災害に対する防災・減災対策を推進

